

数字で見る土木学会



2017年11月1日現在

公益社団法人 土木学会 / Japan Society of Civil Engineers
 企画委員会 & 土木広報センター
 TEL: 03-3355-3448, cprcenter@jsce.or.jp
 〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内
<http://www.jsce.or.jp>



個人会員

3.8

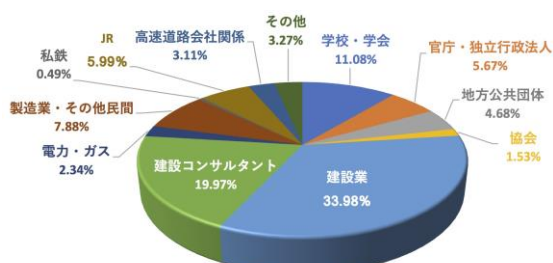
万人

法人会員

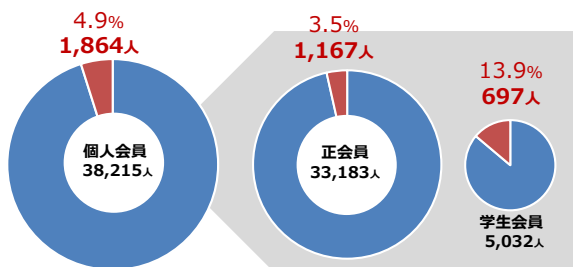
597

特別会員

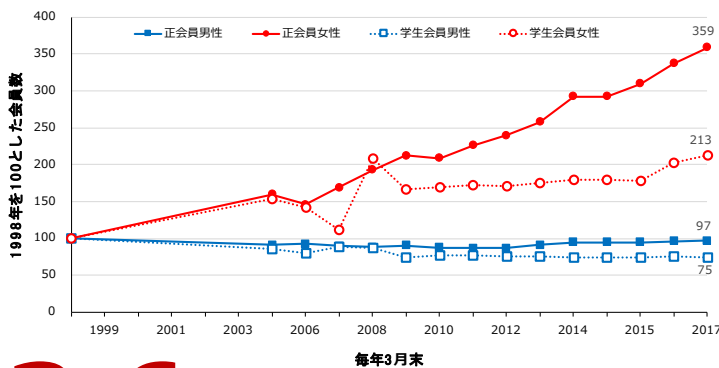
472



正会員（個人）の業種別構成



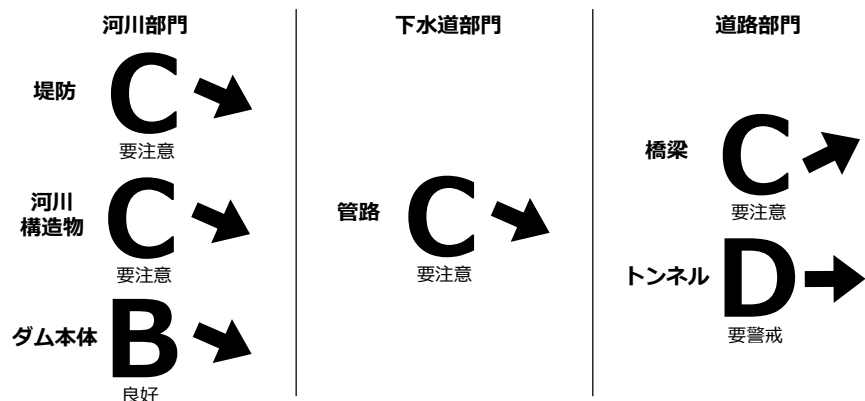
2017年3月末現在



女性会員は 1,864人 **4.9%** 20年で **3.6** 倍

2017年3月末現在

2017インフラ健康診断書（試行版）の公表



土木学会は第三者機関としてインフラの健康診断を行いました。結果を公表し解説することにより、インフラの現状を広く国民のみなさんが理解し、インフラの維持管理・更新の重要性や課題を認識していただくことを目的としています。

<http://committees.jsce.or.jp/reportcard/>

2017インフラ健康診断書
 (試行版) を公表しました

河川部門 (堤防、河川構造物、ダム本体)
 下水道部門 (管路)
 道路部門 (橋梁、トンネル)

JSCE 公益社団法人 土木学会
 JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

347 選奨土木遺産

土木学会では毎年、土木施設を選奨土木遺産として選定しています。土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として2000年度に始まり、全国各地に認定施設があります。



旧網走線開業時の鉄道施設群

	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	西部
河川・海岸	5	6	17	9	5	8	2	6
ダム・砂防堰堤	2	3	8	3	2	4	2	3
橋梁	8	8	33	18	19	9	9	17
道路	2	2	10	3	3	1	1	3
鉄道	5	3	10	3	12	4	4	5
トンネル・隧道	2	1	9	4	6	1	1	4
港湾	7	3	2	1	1	1	1	3
上下水道	4	4	14	3	1	1	1	5
発電	5	0	5	3	3	1	1	1
灌漑施設	0	5	2	3	4	1	0	3
その他	4	5	7	2	1	8	3	4

支部、施設種別一覧

※1 複数に種別される施設も存在
※2 海外にも存在 (ダム1, 上水道1)

<http://www.jsce.or.jp/contents/isan/2016.shtml>

海外との交流も土木学会の仕事の一つです。

2004~2016年度の間に、31回のジョイントセミナーを開催し、合計155名を派遣しました。2016年度は、インドネシア等との間でジョイントセミナーを開催しました。

31 回のジョイントセミナー

155 人を派遣

海外在住会員 172 名



Workshop for Young Civil Engineers (仙台, 2016)



104 人/団体に 13 の賞

1914年に創立された土木学会は、1920年から、功績のある事業、人を表彰してきました。現在では13の賞があり、2016年度は104人/団体が受賞しました。

功績賞、技術賞、論文賞、吉田賞、吉田研究奨励賞、田中賞などは1960年代にはすでにあり、これまでに数多くの受賞者を生んできました。これらの賞を受賞することは、土木学会の会員にとっては大変に大きな名誉です。

<http://www.jsce.or.jp/prize/index.shtml>



2016年度に受賞されたみなさん

2016年度 災害調査団

14回 131人

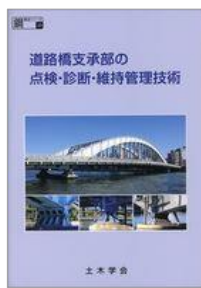
土木学会では、国内外を問わず大災害が発生した際に、発災後ただちに災害対策本部を設置し調査団を派遣して、専門的調査を行い、学術的、技術的見地からメカニズムの解明と防災上の提案を行っています。

東南アジアを中心とする海外へは、1999年から2015年の間に、34回、延べ366人の調査団を派遣しています。2015年は関東・東北豪雨災害に延べ85名の調査団を派遣しました。また、2016年は熊本地震に調査団を派遣しています。

<http://committees.jsce.or.jp/report/>



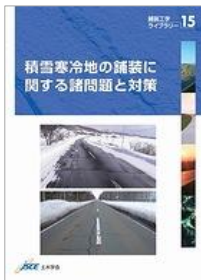
熊本地震会長特別調査団の活動



2016年度に発行した書籍

26点

設計時の基準となる「示方書」や、様々な書籍を発行しています。



支部分会主催の行事

約 250 行事

約 12.0 万人が参加

“11月18日は土木の日”

土木学会では、「土木」の2文字を分解すると十一と十八になることと、土木学会の母体となった「工学会」の創立日が明治12年（1879年）11月18日であったことから、11月18日を「土木の日」と定めています。

2016年度は、市民普請大賞2016と土木偉人映像展「行基」の二部構成からなる「土木の日シンポジウム2016」と、土木界が保有する歴史的資料や図面、写真など、普段は目にすることができない各種コレクションを展示、公開している「土木コレクション2016 あなたは橋派？ 鉄道派？」を実施しました。

土木コレクション2016を訪れた方

38,000人



土木コレクション2016（新宿西口）

活動項目

26

2015年に発足した若手パワーアップ小委員会は、活発に活動を行なっています。

数字は2016年度の活動です。発足後の累計では、活動42件、若手パワーアップ塾参加者109人、SNS投稿662件となりました。

ヤル気のある若手募集中！



若手パワーアップ小委員会

<http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/>

若手パワーアップ塾の参加者 80人

SNS投稿 455件

2016年度の活動

土木学会論文集

土木学会は研究成果を、学術論文集として発行しています。現在、8分野、19分冊が刊行され、厳しい審査を通過した論文が刊行されています。2016年度には和文論文集に202編、英文論文集に18編が掲載されました。

分冊	内容
A1	構造工学, 鋼構造, 複合構造, 風工学, 維持管理工学, 地震工学一般 (地震被害調査など), 等
A2	固体力学, 流体力学, 離散体力学, 非線形力学, 計算力学, 数値解析工学, 等
B1	水・物質循環, 水文に関わる気象現象, 河川水理, 流砂, 河川工学一般 (河道変遷, 氾濫, 水防炎, 河川構造物, 河川計画と管理, 河川・流域の環境, 閉鎖性水域の物理・環境, 水資源, 等
B2	波と流れ, 漂砂と海岸過程, 海岸港湾構造物・施設, 沿岸・海洋工学一般 (地球系と環境系との相互作用, 地球系・環境系・社会系・人間工学, 沿岸・海洋開発, 計画・管理, 災害報告, 計測・モニタリング・実験手法と情報処理技術, 等
B3	海洋における政策・事業・総合的管理, 海洋施設の計画・設計・施工・維持管理, 海洋の調査・技術開発, 海洋環境の保全・再生, 海洋の利用, 海洋における防災, 等
C	土質力学, 地盤工学, 基礎工学, 岩盤工学, 地質工学, 地盤環境工学, 等
D1	公共施設・公共空間の設計・デザイン, 景観の計画・マネジメント, 調査・分析・評価, 計画・設計・施工・維持管理, 事例調査・報告, 景観論・思想・批評, 等
D2	人物史, 技術史, 社会・経済史, 制度史, 教育史, 設計論, 保存・修復・再生, 保存・修復・再生, 等
D3	土木計画論, 社会資本マネジメント, 公共政策, 交通現象分析, 土木計画論, 国土計画・都市計画・交通施設計画, 交通運用管理, 環境計画, 防災計画, 景観・デザイン, 土木史, 空間情報, 合意形成, 等
E1	舗装に関する計画, 材料, 力学, 設計, 施工, 評価, 維持修繕, マネジメント, リサイクル, 環境関係, 等
E2	コンクリート, 鋼材, 高分子材料, 新材料, コンクリート構造物, 設計, 施工, 評価, 維持修繕, マネジメント, リサイクル, 環境関係, 等
F1	トンネル, 山岳, シールド, 開削, 推進, 沈埋, 地下構造物, 岩盤, 地盤, 大空洞, 等
F2	地下空間利用, 地下空間デザイン, 地下防災, 地下浸水, 地下火災, 地下構造物維持・管理, 地下構造物LCM (ライフサイクルマネジメント), 地下(バリアフリー), 地下空間の普及, 地下空間行動心理, 等
F3	設計・施工支援システム, 空間情報, 画像処理, 数値解析・シミュレーション, 知的情報システム, データ・データベース, 情報通信技術, 情報化施工, 情報理論, 情報流通・マネジメント, 等
F4	インフラ整備・開発論, インフラマネジメント論, プロジェクトマネジメント, マネジメントシステム, 交通問題, 公共政策, 建設現場, 建設産業および建設企業, 人材問題, 維持・補修・保全技術に関するマネジメント論, 設計・施工技術に関するマネジメント論, 等
F5	総合工学・技術融合, 経済・社会的合意形成, 社会とのコミュニケーション, 国際貢献, 未来技術・未来社会, 土木技術者の役割と責任, 学術者倫理, ベストプラクティス研究 (最適実践研究), 等
F6	建設安全問題, 労働安全, 安全教育, 安全情報, 安全システム, 安全教育, 地域防災, 危機管理, BCP (事業継続計画), 等
G	環境工学, 環境システム, 地球環境, 衛生工学, 環境計画, 環境教育, 環境教育・国際協力, 等
H	技術者教育, 教育実践, 教育企画, 人材育成, 生涯教育, 継続教育, 男女参画教育, 産業界教育, 倫理教育, 学校教育, 組織内教育, 等

8分野
19分冊
220編

<https://www.jsce.or.jp/collection/index.html>

Facebook フォロワー

27,753人

新聞掲載数

1,278件 (2016年度)

Facebook

最多いいね! 792件 (2017年1月)

Twitter

フォロワー1,320件 (2017年1月)

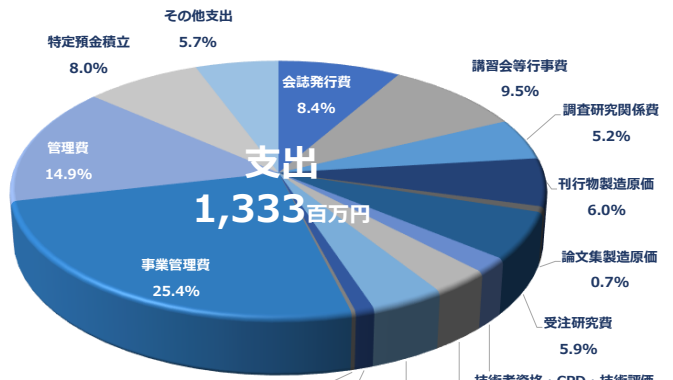
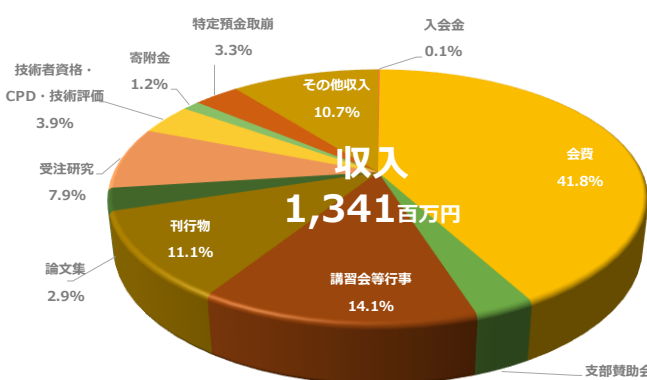
ウェブサイト

平均 730,622 月間PV (2016年度)

土木学会には「土木広報センター」が設置されました。このセンターを中心に、報道機関との懇談会や日々の情報発信が行なわれています。また2016年度には図書館委員会がオンライン博物館「ドボ博」を開館しました。



<http://www.dobohaku.com>



財政規模 13 億円

2016年度決算額